

かざね
四万十の風音

しんせん
森&川だより

二校で森林環境教育「空飛ぶ種子」を実施

6月28日に宿毛市立松田川小学校の一・二年生14名、7月10日には松野町立松野西小学校の四年生19名を対象(今年度森林環境教育第3回目)とした「空飛ぶ種子」を実施しました。

松田川小学校は、低学年なので理解してもらえるか不安もありましたが、最初の「草や木などの植物はどうやって種子を蒔くのでしょうか。」との質問に、すぐさま「風を利用する」「自分で蒔く」と正しい答えが帰ってきたことから驚きました。担任の先生が「草や木の種子についてインターネット等を使って児童達が自主的に予習をして望みました。」という話を聞いて更にビックリ。講義では草や木などの植物に花が咲き実を付け、やがて、「風を利用する」「動物を利用する」「水を利用する」「自分の力で飛ばす」という大きく分けて四つの方法で種子を散布することを説明しました。その後、いろいろな種子を見せて、「イロハモミジ」「アルソミトラ」(東南アジア産のウリ科の植物)などの風や翼を使って飛ぶ種子が実際にどのように飛ぶか観察させました。テイカカズラの種子を手作りの風洞実験装置の筒の中に入れてから、電源を入れるとふわふわ回転しながら舞い上がる様子に児童から歓声が沸きました。また、大きな翼を持つ種子「アルソミトラ」がグライダーのように飛ぶ様子に驚いていました。

アルソミトラ



この種子をヒントに考案された



次に、「ニワウルシ」「ラワン」「マツ」「アルソミトラ」の種子の模型を製作、薄いスチレンシートにコルクを貼り合わせたり、色紙等を使って作り、さっそく教室で飛ばすと、くるくると回りながら衝撃を和らげて落ちる様子や、ふわっと滑空する様子、輪ゴムで打ち上げるとロケットのように高く飛んで舞い降りてくる様子を実感させました。そして、羽根をV字形に折ったり、しわをつけたりすることで種子の飛び方にも工夫をつけました。

最後は、校庭に出て「フジ」「フウ」などの樹木の種子探しをしました。

今回の活動を通じて児童の草や木、自然に対する興味・関心がより高まることを期待します。



ラワンの木

ラワン



ラワンの種子



マツ、ラワン、ニワウルシの種子模型製作用キット



オオオナモミ



チカラシバ

いろいろな
ひつつきむし



テイカカスラの種子



フウ



フウの球果



フウの種子



ニワウルシの種子



イタヤカエデの種子



フジの種子



松田川小学校

フウの種子探しの様子



いろいろな種子の観察



ニワウルシの種子模型を飛ばそう



アルソミトラの種子を飛ばそう



松野西小学校

ラワンの種子模型を飛ばしてみよう



種子の模型を製作中



フジの種子探しの様子



種子散布の仕組みを学習

ニホンジカ被害地の自然再生

(黒尊山の森林再生)

◇概要

四万十森林管理署管内の黒尊山国有林（高知県四万十市西土佐）では、ニホンジカの食害により成林が見込めない林地が散在しています。その対策として、平成16年度からNPO等団体と連携して、有用樹の刈り出しや郷土樹種の植栽、シカ防護柵の設置や遊歩道の整備等を行い、多様性のある変化に富んだ森林への再生を目指した事業に取り組んでいます。森林再生の対象地は、黒尊山国有林10林班に3箇所（総面積12.69ha、シカ防護柵の設置総延長3,500m、シカ防護柵内面積9.18ha）設置しています。



◇今年度の取組み

16年度から植栽したブナ、イロハモミジ、ヤマザクラ等の広葉樹は、14年を経過し樹高が6m以上に達する木も多く、ニホンジカの食害を受けることなく、それぞれの植栽木が順調に成長しています。また、ヘキサチューブが広葉樹の成長を圧迫しているものは、ヘキサチューブを取り外し、ラス巻き（木の幹に網を巻くこと。）に切り替える作業を27年度より実施しています。





シカ防護ネット柵の定期的なメンテナンス



これまでに、三本杭山頂周辺の自然再生地に設置したシカ防護ネット柵の総延長が延びるに連れ、台風等によるネットへの倒木や積雪による雪の重みが原因で支柱が折れたり、ニホンジカがネット内に侵入してネットに掛って壊す場合が増加したことから、定期的な点検・補修（メンテナンス）作業が欠かせません。

三本杭山頂付近でのシカ防護ネット柵の点検の様子



シカ防護ネット柵の補修作業の様子



日吉中学生に夏休み木工教室 INふれあいセンター

8月4日(土)に、鬼北町立日吉中学校テニス部の一年生3名とその父兄等あわせて12名が、部のレクリエーションとして四万十川でカヌー等をした後、旧西ヶ方小学校内にある当センターを訪れ、木工教室で壁掛けを製作しました。

はじめに、ふれあいセンターが行っている森林環境教育や自然再生事業、増え過ぎたニホンジカの捕獲などの仕事について当センター発行の「年報」で簡単に説明しました。

木工教室では、製作に当たっての注意事項等を説明した後、材料として準備していたヒノキ板、サクラやミズメ等の輪切りや小枝、ブナの殻斗(実を包む殻)、ドングリなどの木の实、コルクなどから大小色々なパーツを自由に選んで使っていただきました。また、ヒメシャラの小枝を万力に挟んでノコギリを使って切断加工することにも挑戦し、作品づくりに利用しました。

職員はそれぞれ生徒達の輪に混じって道具の使い方などのアドバイスをしました。壁掛けを完成させた後、短い時間ではありましたが、テニス部員ならではのオリジナル作品を製作していました。

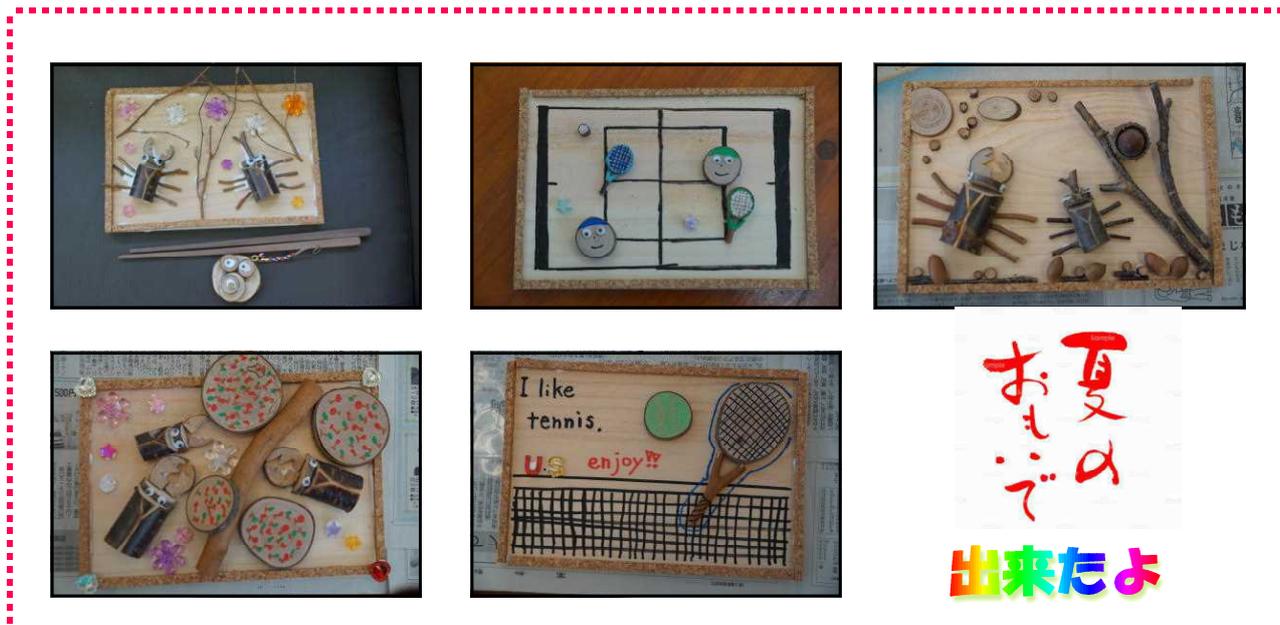
最後に父兄から、「子ども達も壁掛けづくりを通して楽しい夏休みの思い出になりました。いろいろな物を準備していただき、私達父兄も作品が作れて楽しかったです。」とお礼の言葉をいただきました。

当センターとしても親子で木材に親しんでいただき良い一日となりました。



壁掛け製作の様子





ニホンジカの捕獲推進



当センターでは高知県四万十市の黒尊山国有林周辺、愛媛県の滑床山国有林周辺において、ニホンジカ被害地の森林再生、植生回復事業に取り組んでいます。

また、四万十市の黒尊山、松野町の目黒山、宇和島市の滑床山国有林において大型・中型・小型の囲いワナ、あわせて19基を設置して、増え過ぎたニホンジカによる森林への被害が少しでも減少することを期待し頭数調整に努めています。

平成30年度シカ捕獲実績 (平成30年8月末現在)



| 捕獲場所 | 合計 |
|--|----|
| 黒尊山国有林周辺(高知県) | 1 |
| 目黒山・滑床山国有林(愛媛県) | 3 |
|  合計 | 4 |

自動撮影カメラで捉えたニホンジカの様子



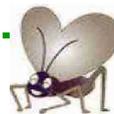
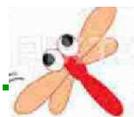
黒尊山



目黒山



滑床山



林野庁 四国森林管理局
四万十川森林ふれあい推進センター
高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2
電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031

